

toVO トウゴ  
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 3



NO. 028

あおりの100家族、わたしたちのこけから

20140711







インタビュー 今号のご家族 ▶ 東 正貴さん・麻比さん・真央ちゃん

撮影場所 ▶ 黒石市上十川(黒石市)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶正貴さん「浪岡のリンゴ園地で剪定をしていました。揺れていることに全く気がつかなくて(笑)。畑の中に電柱があって、それを地面に固定しているワイヤーが『パチンパチンパチン』と鳴るので、何だろう？と見たら、ワイヤーがぶわんぶわん揺れて出ている音だった。電柱も揺れていたの初めて地震に気付いて、すぐ家に電話したけどもうつながらない。自分は仙台に住んでいたときがあって、麻比も仙台市隣の富谷町の出身。仙台ではちよくちよく大きい地震を経験して、そのたびに電話が繋がらなくなった。だから、電話が繋がらなかったことで、『これは大きい地震だ』と直感して、即、家に戻りました。」

▶麻比さん「当時、真央が生まれて7カ月。お昼寝させてテレビを見ていたら揺れて、なかなか収まらなくて。居間に本棚があって、『これ倒れたら危ないな』と思って、片手で真央を抱っこして、もう一方の手で本棚を押さえていました(笑)。なんとなく仙台方面(の被害が大きかった)だろうなという予感があって、富谷の実家にすぐ電話したけどつながらなくて、30分ぐらいひたすらあちこち電話をかけ続けて、やっと姉とつながった。その日の夜は、反射式のストーブを出してきて、ろうそくを立てて過ごしていました。」

▶正貴さん「うちは農家で発電機などを持っていたので、テレビをつけて情報収集できたし、携帯電話の充電もできたし。ガソリンはバイクが何台かあって、農業用機械のものも全部かき集めて、60リットルぐらい確保して、しばらくこれでなんとかなるか。軽油で動く車もあるし、農家の強みが生かされましたね。小さいお子さんがいて不安だったのでは。」

▶麻比さん「実家のほうで連絡がとれない人もいたので、むしろそっちが気になって。石巻にも親戚がいるので、ひたすら電話をかけ続けて。姉の夫が仙台港で働いていて、津波で車を流されたりはしましたが、みな無事でした。」

●心境や生活での変化はありましたか？

▶正貴さん「家族が増えるとほぼ同時に大変な事態を経験したので、危機感を持った生活をするのが当たり前になって(笑)。何かあったらすぐ動く、という。」

▶麻比さん「とにかく真央のために動くと。私が実家と親戚の連絡係をしばらくしていたこともあり、親戚との距離感が近くなった。それ以来、こまめに連絡をとるよう心がけるようになりました。」

▶正貴さん「うちの家族の半分は地震の関係者。自分も仙台時代の仲間に物資を持っていくなどしていたし、震災を経て、何か手伝えることがないかと考えるようになりました。自分は昨年、リンゴ農家や業者でリンゴ即売会などを開く『黒石輝くりんご市の会』の会長を務めていて、モノ売ってもうけているだけじゃだめで、何か違うことをしようということになって。黒石市は被災した宮古市と姉妹都市の関係。宮古市特産の塩を使った『塩サイダー』を販売して復興支援にあてている団体が現地にあるんですが、両市が間に入って、そのサイダーと黒石のリンゴジュースをコラボレーションした商品を開発する活動を、年明けからやってきました。もうすぐ商品化されます。『宮黒サイダー』という商品名で、塩サイダーにリンゴジュースを加えたもの。普通においしいよ(笑)。」

●10年後のイメージは？

▶正貴さん「農園を法人化。自分のやりたい形があるので、理想に近づけたい。」

▶麻比さん「平和に暮らしていきたい(笑)。真央は14歳。このまま、真央にはママ大好きでいてほしい(笑)。一緒に買い物したりとか。」

▶正貴さん「おれは『ババ嫌い』って言われてそうで、そこんこは諦めてる(笑)。」

▶真央ちゃん「(プリキュアの)キュアラブリーになりたい。」

▶正貴さん「真央はそこ絶対に曲げないね。(笑)」 **終**

定期購読のご協力をお願い致します

1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金)／1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。

編集後記

tovo plusは、青森で暮らすごく普通の家族がテーマなのだけど、「あの日」を境に、みな何かしらの変容を遂げながらきょうに至っているのだと、取材のたび感じます。その変化は劇的ではないにしろ、確かなものとして、家族の中に積み重なっていくようです。正貴さんはじめ「りんご市の会」が、自らの産業を復興支援に結びつけた「宮黒サイダー」、楽しみです。このtovo plusが発行されるころには数めるかな。【前田ふひと】

東日本大地震・津波被災者チャリティー



2011年6月～2014年6月30日まで

¥2,458,595

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶東 正貴さん・麻比さん・真央ちゃん

撮影場所▶黒石市上十川(黒石市)

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶正貴さん「浪岡のリンゴ園地で剪定をしていました。揺れていることに全く気がつかなくて（笑）。畑の中に電柱があって、それを地面に固定しているワイヤーが『バチンバチンバチン』と鳴るので、何だろう？と見たら、ワイヤーがぶわんぶわん揺れて出ている音だった。電柱も揺れ

ていたの初めて地震に気付いて、すぐ家に電話したけどもうつながらない。自分は仙台に住んでいたときがあって、麻比も仙台市隣の富谷町の出身。仙台ではちょくちょく大きい地震を経験して、そのたびに電話がつながらなくなった。だから、電話がつながらなかったことで、『これは大きい地震だ』と直感して、即、家に戻りました。」

▶麻比さん「当時、真央が生まれて7カ月。お昼寝させてテレビを見ていたら揺れて、なかなか収まらなくて。居間に本棚があって、『これ倒れたら危ないな』と思って、片手で真央を抱っこして、もう一方の手で本棚を押さえていました（笑）。なんとなく仙台方面（の被害が大きかった）だろうなという予感があって、富谷の実家にすぐ電話したけどつながらなくて。30分ぐらいひたすらあちこち電話をかけ続けて、やっと姉とつながった。その日の夜は、反射式のストーブを出してきて、ろうそくを立てて過ごしていました。」

▶正貴さん「うちは農家で発電機などを持っていたので、テレビをつけて情報収集できたし、携帯電話の充電もできたし。ガソリンはバイクが何台かあって、農業用機械のものも全部かき集めて、60リットルぐらい確保して、しばらくこれでなんとかなるか。軽油で動く車もあるし、農家の強みが活かされましたね。小さいお子さんがいて不安だったのでは。」

▶麻比さん「実家のほうで連絡がとれない人もいたので、むしろそっちが気になって。石巻にも親戚がいるので、ひたすら電話をかけ続けて。姉の夫が仙台港で働いていて、津波で車を流されたりはしましたが、みな無事でした。」

●心境や生活での変化はありましたか？

▶正貴さん「家族が増えるとはほぼ同時に大変な事態を経験したので、危機感を持った生活をするのが当たり前になって（笑）。何かあったらすぐ動く、という。」

▶麻比さん「とにかく真央のために動く。私が実家と親戚の連絡係をしばらくしていたこともあり、親戚との距離感が近くなった。それ以来、こまめに連絡をとるよう心がけるようになりました。」

▶正貴さん「うちの家族の半分は地震の関係者。自分も仙台時代の仲間に物資を持っていくなどしていたし、震災を経て、何か手伝えることがないかと考えるようになりました。自分は昨年から

、リンゴ農家や業者でリンゴ即売会などを開く『黒石輝りんご市の会』の会長を務めていて、モノ売ってもうけているだけじゃだめで、何か違うことをしようということになって。黒石市は被災した宮古市と姉妹都市の関係。宮古市特産の塩を使った『塩サイダー』を販売して復興支援にあてている団体が現地にあるんですが、両市が間に入って来て、そのサイダーと黒石のリンゴジュースをコラボレーションした商品を開発する活動を、年明けからやってきました。もうすぐ商品化されます。『宮黒サイダー』という商品名で、塩サイダーにリンゴジュースを加えたもの。普通においしいよ（笑）。」

#### ●10年後のイメージは？

- ▶正貴さん「農園を法人化。自分のやりたい形があるので、理想に近づけたい。」
- ▶麻比さん「平和に暮らしていきたい（笑）。真央は14歳。このまま、真央にはママ大好きでいてほしい（笑）。一緒に買い物したりとか。」
- ▶正貴さん「おれは『パパ嫌い』って言われてそうで、そこんところは諦めてる（笑）。」
- ▶真央ちゃん「（プリキュアの）キュアラブリーになりたい。」
- ▶正貴さん「真央はそこ絶対に曲げないね。（笑）」

#### 【編集後記】

tovoplusは、青森で暮らすごく普通の家族がテーマなのだけど、「あの日」を境に、みな何かしらの変容を遂げながらきょうに至っているのだと、取材のたび感じます。その変化は劇的ではないにしろ、確かなものとして、家族の中に積み重なっていくようです。正貴さんはじめ「りんご市の会」が、自らの産業を復興支援に結びつけた「宮黒サイダー」、楽しみですね。このtovo plusが発行されるころには飲めるかな。【前田ふひと】

#### 【寄付総額】

2011年6月～2014年6月30日まで、「¥2,458,595」を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。